

(西暦) 2019年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること)

化粧行為評価表試作版の開発～質問項目の作成と内容的妥当性の検討～

学位の種類: 修士 (作業療法学)

首都大学東京大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学域

学修番号 18896708

氏名: 森 園子

(指導教員名: 石橋 裕 准教授)

注: 1ページあたり 1,000 字程度 (英語の場合 300 ワード程度) で, 本様式 1~2 ページ (A4 版) 程度とする。

化粧は多くの人々が行っている日常生活活動であり, 作業療法においてもその支援が行われている。作業療法における化粧支援では, クライアントが化粧をできるよう支援するだけでなく, 化粧をした後に対人交流, 外出などの生活行為を行えるような支援も行っている。そのため, 化粧と化粧に関連する日常生活の実施状況を同時に評価することは, 作業療法の化粧支援において重要だと考えられる。しかし, 作業療法の化粧支援に関する先行研究の中で, 成果指標として化粧に関する評価表を用いていた支援報告はなかった。また, 作業療法領域以外では化粧に関する評価表は複数存在するが, 化粧と化粧に関連する日常生活の実施状況を包括的に評価する評価表は見あたらなかった。そこで, 本研究ではクライアントの化粧や化粧に関連する日常生活の実施状況を包括的に評価できる化粧行為評価表を開発することとした。

本研究は, 尺度開発の国際基準である Consensus-based Standards for selection of health Measurement Instrument(COSMIN)に準拠し, 2 段階の研究を実施した。研究 1 では, 文献レビューにより化粧や化粧に関連する日常生活についてのテキストを抽出し, 構成概念とその定義を作成した。はじめに, 階層的クラスター分析にて樹形図を作成し, その樹形図を参考に語句をカテゴリ分けし, 構成概念とその定義を作成した。次に, 構成概念の定義と既存の評価表を参考に, 質問項目を作成した。それらを用いて, 研究 2 では Nominal group technique (NGT) による内容的妥当性の検討を行った。対象は, 化粧に関する研究経験や支援経験がある作業療法士 6 名, 美容部員 2 名とした。NGT では各質問項目の適切さについて検討会を実施し, 対象者はその前後で各質問項目の適切さについて 5 段階で評価した。結果を集計し, 最終的に中央値が 5, 四分位範囲 1.0 以下となった項目を内容的妥当性が確認された項目とし, 本評価表に採用した。

研究 1 の結果, 基本的化粧スキル, 応用的化粧スキル, 社会参加的側面, 自己意識的側面といった構成概念が作成され, これらを基盤とする 54 の質問項目が作成された。研究 2 の結果, 最終的に中央値が 5, 四分位範囲が 1.0 以下となり, 内容的妥当性が確認された質問項目は 51 項目であった。

本評価表には, 化粧を習慣的に行うための項目, メイクを通して自分を演出するための項目, 化粧と関連する生活行為についての項目, 化粧の心理的効果を活用する項目が含まれた。今回の質問項目の作成と内容的妥当性の検討は, COSMIN が推奨している基準を満たす方法で行われたと考えられる。したがって, 今後は今回開発した評価表をもとに構成概念妥当性などの検証を行う必要があると結論づけた。